

— 地域特性を活かした独自規格 —

地方 の 常識

企画趣旨

日本の各地方には、歴史・風土・文化からもたらされる、地域特有の名産品や規格品、生活手法や習慣がある。なかでもわれわれが仕事で携わる土木施設は、古くは地場の材料を使ってつくられ、その構造は地域の風土や周辺的环境に適応した構造になっているものも多い。このような地域材を利用したり地域の特性を考えた土木構造物は、そこで生活する人びとにとっては、広く日常生活のなかに溶け込んでいるため、特に気にすることもなく利用している。ところがよその地域から、出張や観光で訪れると、「おやっ?」と不思議に思ったり、「ああ、なるほど。」とつい「にんまり」(納得)するものでもある。

本企画は、ある地域では公共財として普通に使われているのに、ほかの地域では見られないような土木構造物や土木関連施設を取材し、つくられた経緯や今後の展開などを、エッセイとして取り上げる。このような地域の独自規格に触れたり、そのあり方を再考することは、これからの地方の特色を考えるうえで一つのヒントともなる。

読者のみなさんが、地方(もちろん東京も1地方である)を訪れたときに、その地方で普通に見られる地域特性を活かした独自の規格を紹介する。

(亀谷 一洋)

編集企画主査 亀谷 一洋、編集企画担当 S 班